

27年度 学校教育自己診断の総括

アンケート結果をもとに学校長が分析し、次年度以降の学校経営に反映するべきポイントを列記した。

【課題】

昨年度の学校協議会（第3回1月27日）にて、各アンケートそのものの在り方について問題提起をいただいております、来年度より抜本的なアンケート項目の見直しと各対象アンケート項目の横並び比較（意識ギャップ検証）が可能な形態へ変更することとする。

【教職員向けアンケート（各対象別）】

教科：各教科内での情報共有や教材の工夫などの実施面においては肯定的な回答をする割合が高位に位置する一方で、コンピューター活用などの授業内での活用度合が低い水準が継続している。

個人：部活動の活性化に関する項目の肯定度が高位にある一方で、学習との両立に関する取り組みに対しては依然として課題を有する結果が見られる。

生徒：生徒の家庭学習時間の長さに対する教員の問題意識が例年通り高位に位置しており、学力向上への取り組みを掲げる学校経営の大きな課題として意識している。

学校：校内の研修制度の充実を求める回答が高位に位置している。また、インクルーシブ教育への取り組みに関しても教職員は課題として取り挙げている。

学校長：教育理念やリーダーシップに対する肯定度は高いが、上の既述の意識に対する改善を求める教職員への対応が必須であるとの認識を高める必要がデータ上見て取れる。

【保護者向けアンケート】

全体的には、泉北高校への入学や特色に対する肯定的な回答が高く、子供たちの学

校生活に対する充実度の高さがうかがわれる結果となっている。

一方で、課題として指摘しているのが、学校からの情報発信に対する改善の要求、部活動と学業の両立に対する学校サイドへの要望の高さが見受けられる。教職員のアンケート結果と同様に、現状の家庭学習時間の不足に対して、家庭と学校が連携しながら改善を進めていく必要がある。

学校安全面においても、災害時の対応改善の要望が高く、喫緊の課題として位置づけていく必要がある。更に、インターネットや携帯等の使用時間に対する保護者の問題意識が高く、学校としても、使用における倫理的な側面の指導に加え、家庭学習への影響などを考慮した様々な側面での指導が必要との認識を共有している。

【生徒向けアンケート】

総じて、学校生活における充実度が高位に位置する一方で、大きな課題としては以下の3項目に対する解決が求められると考える。

1. いじめの存在を指摘する生徒の割合や命の大切さなどを学ぶ機会増に対する要望が高い。
2. 勉強についていけずに苦痛を感じている生徒の割合が高位にある。
3. 悩みの相談や親身になって応じてくれる先生を求めている生徒の割合が高位にある。

これらに対しては、生徒と教職員間での意識のギャップが少なからず存在することから、今年度の学校計画の中で、きめ細かい、組織としての生徒相談体制への強化、勉強についていけない理由などを更に聞き取り、個別具体への対応へ結びつけることを優先的に取り組むことなどが必要と考える。

以上